

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570214304		
法人名	有限会社 つなぎの里		
事業所名	グループホーム つなぎの里 (ぱんだユニット)		
所在地	秋田県能代市二ツ井町小繋字麻生道端87-3		
自己評価作成日	平成26年6月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成26年7月24日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は自然に囲まれた地域にあり、人と人のつながりを大切にしながら、利用者はもちろん、地域の方との交流を大切にすることを心がけ、日々取り組んでいる。畑作りや花壇植え、2年に一度の地域交流会や年2回の家族会、毎月の行事など利用者の負担にならない程度の行事を考え実行し、また2か月に1回開催している運営推進会議では地域の方の意見を聞き入れ、利用者・家族・地域の方々が楽しんで参加していただけるホーム作りを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は小高い丘の上にあり、同じ敷地内にショートステイが併設されている。事業所内は共有空間・居室ともに広く、明るく清潔に保たれており、静かにゆったりと過ごせる空間が確保されている。主治医と連携をとりながら、重度化や終末期に向けたケアを積極的に行っており、利用者及び家族への対応等、医療機関とのチームワークの良さがケアのプラスになっている。医療連携を活かして健康管理面での支援を行っており、利用者の咀嚼や嚥下力に応じて「刻み食」「ミキサー食」等の食事形態を取り入れている。管理者・職員間のコミュニケーションもよく、明るく笑顔のある職場の雰囲気が利用者への安心な居場所へとつながっている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自由・絆・笑顔という理念を掲げ日々取り組んでいる。ミーティング等で理念の見直しを行い取り組みなどを確認している。	開設からの事業所の理念「自由・絆・笑顔」を職員心得として、事業所内へ掲示している他、月1回のミーティング等で確認している。また、管理者や職員は理念を周知しており、利用者の「笑顔」を念頭に、日々、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所行事には2年に1度、地域交流会や年に2回、家族の方を招待して交流の場を設け、利用者や地域の方と楽しく過ごす時間作りに取り組んでいる。	2年に1度、事業所が主催する「地域交流会」に利用者家族や地域住民、ボランティアの他、地域の子供達の御神輿や郷土芸能の踊りの訪問があり、交流を深めている。また、介護事業所の集まり「ほっとネット二ツ井」に参加し、研修、情報交換している。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	地域住民からの相談、問い合わせがあった際はその都度対応している。また運営推進会議を生かし、地域の方にホームの理解と協力をお願いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催している。意見や提案があった際はスタッフミーティングの際に報告・話し合いを行い、サービスの向上に生かしている。	運営推進会議を2か月ごとに定期的に開催している。市福祉課職員、町内会長、民生委員、利用者家族等が参加し、事業所からの報告・連絡を行う他、参加者からの情報提供や意見等を得ている。意見を参考に、ミーティングの機会に検討を重ね、サービス向上に取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて、市の職員に参加していただき、事務所の報告や災害対策等について話し合いを行い助言いただいている。	市福祉課職員が運営推進会議の委員として参加し情報交換をしている。市の担当者の協力や地域包括支援センターとの空室状況の確認等、機会あるごとに連絡や行き来をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないケアを目指しており、勉強会などを行って職員の意識を高めるよう努めている。やむを得ず身体拘束をしなければならない場合には本人・家族の同意を得ている。	昼間は玄関を施錠せず開放しており、利用者が外に出そうな素振りがあるときは、寄り添いさりげない声掛けや見守りをするように心掛けている。全職員は研修等で身体拘束による弊害を理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については注意を払い、内部研修を行ったりすることで防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業について、現在3名の方が利用しており、必要な方には活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族などの不安や疑問を尋ね、十分な説明を行い、理解・納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にはアンケートを配布し、意見や要望を聞き、利用者には、日常のさりげない会話の中から思いや希望を聞くようにしている。	利用者からは毎日の生活の中で聞き取るようにしている。家族については意見箱を設置したり、面会時に聞いている他、年2回のアンケートで意見や要望を汲み取る努力をしている。意見や要望についてはミーティングで話し合い、速やかに改善に向けた取り組みを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を出し合ったり、都度職員の意見や提案を管理者会議等を通して管理者から代表者へ報告している。	職員は月1回のミーティングや申し送り等で忌憚なく、活発に意見を出し合っている。管理者は職員の意見を吸い上げ、法人内の管理者会議をととして運営に反映するように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が労働時間・勤務状況などを報告しており必要時環境整備などを行っていたりしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や協会などの研修へ計画的に参加し、スキルアップに努めている。また研修報告書の提出や報告をミーティングにて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加盟している。また昨年度設立した「ほっとネットニツ井」にも参加し、情報交換や研修会の参加、内部研修などを行いサービスの向上に努めている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安なこと、困っている事に耳を傾け要望を確認している。また安心して相談できる雰囲気作りを心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話により気軽に相談できる関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事準備や食器拭き、洗濯物干しや掃除と、作業を一緒に行っている。また同テーブルを囲み一緒に食事や会話を楽しむよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や支払い時、月一発行している「生活の様子」で近況をお知らせし、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	隣ユニットに顔見知りの利用者と接する機会を設けたり、本人の希望する限り、馴染みの関係が途切れないように心がけている。	利用者に家族、知人が訪れた際はゆっくりと会話できるように努めている。理容店や販売店、友人等、利用者が大切にしてきた馴染みの人達との交流や場所とのつながりが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良く楽しく過ごしていけるようスタッフも間に入り、声かけ等で係わり合い支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても継続的に関わりを必要とする方に対しては継続した関わりを支援できるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方や希望を日常の会話や直接聞くことにより意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位や家族からの話を取り入れてその人らしい暮らしができるよう検討している。	利用者一人ひとりの表情や動作及び家族からの聞き取りから思いや意向を把握するよう努めている。得られた情報は、ミーティング、申し送り等で話し合い、職員全員が共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアプラン作成時、アセスメント記入を基にしてこれまでの経過などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や申し送り、カンファレンスなどで一人ひとりの現状を話し合いながら共有するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望を取り入れた上で職員全員の意見を出し合って介護計画を作成している。	介護計画の見直しは6ヶ月に一回実施している他、必要があれば随時行っている。月1回のミーティングで利用者一人ひとりのモニタリング、評価、利用者家族の意向等を反映させ、全職員で現状に即した介護計画を目指し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果を終日記録し、よい所は継続し、改善が必要な時は話し合いをして介護計画に取り入れている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる ※小規模多機能型居宅介護限定項目とする			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行動の際はボランティアの方や保育園の方々に来ていただき支援している。地域の行事等の参加も継続している。		
30	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望している医療機関に受診・往診の連絡を密にして適切な受診や看護を受けられるよう支援している。	利用者及び家族の希望を尊重している。利用者個々のかかりつけ医への受診を支援しており、家族と連携しながら柔軟に対応している。協力医療機関や近隣の医療機関とも連携がとれており、口腔ケアの勉強会等、積極的に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員や地域医療機関と連絡を取り相談しながら利用者の適切な受診や看護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	個人個人の健康状態の把握に努め医療機関・看護職員への連絡相談を密にして適切な治療を受けられるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化に備え、地域かかりつけ医と共にチームとしての支援に取り組んでいる。ミーティング・カンファレンスなどで重度化、終末期での良いケアの仕方など話し合いの機会を設けている。	入居時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明しており、事例が出た場合、利用者、家族等と話し合い、医師、看護師と連携を図りながら支援に結び付けていくこととしている。また、職員間でも情報や支援方針を共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に適切な対応ができるようミーティング時に勉強会を行い知識の向上に努めている。救命講習にも参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災管理者計画の年2回の避難訓練を行っている。ミーティングの際、全職員が避難方法を身につけるよう話し合っている。運営推進会議にて地域の方に協力をお願いしている。	消防署立会いの総合訓練を含め、年2回の避難訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行っている。避難訓練には地域住民や消防団の参加が得られ、協力体制を築いている。災害時の緊急マニュアルの整備、非常食の備蓄、スプリンクラー、火災通報装置の設置等、非常時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーを損ねる言葉かけや対応は行っていない。スタッフは利用者と同じ目線で接するよう心がけている。	職員は常に笑顔で接し、利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応を心掛けている。特に、排泄支援や入浴支援等の場面で配慮している。ミーティング、内部研修等で、プライバシーの尊重と関わり方、接遇マナーについて研修を行い、徹底を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、自己決定できるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿ってその人らしい暮らしができるよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者の希望時には行きつけの床屋への送迎を行っている。また、困難な方には訪問美容を利用している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	声かけにて、手伝い出来る利用者は一緒に食事作りや盛り付けを行っている。	系列事業所の栄養士に相談しながら職員が交代で献立を作成し、栄養管理に努めている。利用者はできる範囲で下拵えや盛り付け等、一緒に行っている。食事は利用者と職員が一緒にとり、和やかな雰囲気、楽しんでる光景が確認できる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表への記入で個々の状況把握ができています。飲み込みの十分でない方にはとろみ材などで工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔清掃の実施、義歯浄剤の使用、うがい薬によるうがいなどの支援を行い、毎食後実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄時間を記入することで一人ひとりの排泄パターンを把握している。訴え時や時間をみて、トイレ誘導を行っている。	トイレでの排泄の自立に向け、利用者個々の排泄状況をチェック表で確認し、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして支援を行っている。おむつ使用者は夜間のみ使用とし、日中は種類を変え、トイレでの排泄の支援をしている。希望により、夜間のみポータブルトイレを使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・食物繊維・バナナ摂取、個々にあわせた運動などで支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	それぞれの健康状態に合わせて入浴できるよう支援している。	週3回入浴支援しており、利用者個々の心身の状態を把握し、気分転換を図り、清潔が保たれるよう配慮している。また、身体状況から清拭、ドライシャンプー等で対応している。足浴の必要な利用者には毎日午前中実施している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を多く取り入れる。時々外出などで気分を良くし、気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時、付いて来るお薬の写真の紙に目を通してしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自役割を持ち、できることを行っている。誕生会や季節に合わせた外出などで気分転換ができるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	希望時、散歩に出たり、畑作り、花見や紅葉など季節に応じた外出支援の他、地域の行事への参加、自宅への外出・外泊 希望に応じ対応している。	事業所・地域の行事等、出来るだけ利用者全員で外出やドライブをしたり、外食、買い物等も楽しんでいる。天気の良い日は、事業所の敷地内を散歩したり、畑仕事等、戸外に出て外気や様々な刺激に触れられる機会を設けている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる利用者は、いくらかの所持金があり自由に使えるようにしてる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時にスタッフが電話をし、本人が話せるよう支援している。また年賀状を一緒に作成し送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	換気・空調の温度調節をこまめに行い、過ごしやすいようにしている。花を植えたり飾ったり、季節を感じられるようにしている。季節に合ったカレンダーを作製し、はり出ししている。	リビングは適度な光が入り、明るく開放感があり過ごしやすく、清潔に保たれている。多くの利用者はソファで休んだり、職員と会話したりして一日の大半をリビングで過ごしている。また、広いトイレが2ヶ所あり、車いす利用者の使い勝手が非常に良くなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている ※認知症対応型共同生活介護限定項目とする	利用者個々のソファ・イスの座り位置が決まっている。廊下奥にテーブル・イスを置き、利用者が一人の時間を過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなものを持ち込み、個々に合わせて居室作りに努めている。	各居室は明るく、ベッド、エアコン、整理タンスが配置・設置されており、ゆっくりと落ち着いて過ごせるよう配慮されている。利用者の多くは写真・花・飾り物等を持ち込んで部屋づくりをしている。部屋の清掃は利用者と職員が一緒にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所がわかるよう、看板を付けたり居室に名前を付けたり手すりを設置している。		